

魚種（海域）：ヤナギダコ（北海道周辺海域）

担当水試：中央水産試験場

### 要約表

評価年の基準 (2011年度)	資源評価方法	2011年度の 資源状態	2011～2012年度 の資源動向
2011年1月1日 ～2011年12月31日	漁獲量	中水準	横ばい

\* 生態については、別紙資料「生態表」を参照のこと。

## 1. 漁業

### (1) 漁業の概要

ヤナギダコを対象とした専獲漁業はたこ空釣り縄であり、沖合底曳網、各種かご網、刺し網などで混獲される。

### (2) 現在取り組まれている資源管理方策

許可の制限条件、漁業権行使規則などで操業期間、漁具の制限等を定めている。

## 2. 評価方法とデータ

漁獲量の集計には1985～2010年は漁業生産高報告、2011年は水試集計速報値を用いた。集計にあたり北海道海周辺海域を4つの海域に区分した。それぞれの海域名と集計範囲を下記に示す。

- ・日本海海域：集計範囲は宗谷，留萌，石狩，後志，檜山振興局
- ・オホーツク海海域：集計範囲はオホーツク総合振興局
- ・襟裳以西海域：集計範囲は渡島，胆振，日高振興局
- ・襟裳以東海域：集計範囲は：十勝，釧路，根室振興局

## 3. 資源評価

### (1) 漁獲量および努力量の推移

全道の漁獲量の推移をみると、1986～1991年には8～9千トン台で推移していたが、1992～1996年には4～5千トン台にまで減少した。1997年以降漁獲量はやや増加して2004年までは7千トン前後で推移していたが、2005年には急増して13千トンとなり、翌年も12千トンと高い水準を維持した。しかし、2007年には漁獲量が大幅に減少して8.7千トンとなり、その後の2008～2010年には7千トン前後で推移したが、2011年には5,345トンとさらに減少した（図1）。

海域別には襟裳以西海域と襟裳以東海域での漁獲が多く、この2海域で全道漁獲量の8～9割を占める(表1, 図1)。日本海海域では1986年に1,376トン記録して以降は漸減傾向にあり2011年には408トンにとどまった。オホーツク海海域では1990年に354トン記録しているが、1999年以降は100トン以下で推移しており2011年も51トンにとどまっている。襟裳以西海域では1998年に5千トンを超えているが、この年を除くと2.5千トン～4.6千トンの範囲で増減を繰り返しており、近年では2009年以降は増加傾向となり2011年は3,253トンとなった。襟裳以東海域では漁獲量の変動が大きく1985年以降2千～3千トン台で推移していたが、1994年には5百トンまで減少した。その後は徐々に増加し2000年には約3千トンまで増加したのち2003年には1.8千トンまで減少したが2004年以降急激に増加し2005年には8.7千トン、2006年には7千トン記録したが再び減少し、2011年には前年の3,419トンから半減して1,633トンまで減少した。

現状では詳細な漁獲努力量の把握は出来ていないが、各「支庁の水産」から2011年度、北海道知事許可漁業数(たこ漁業)を過去のヤナギダコ漁獲量の上位3振興局分(日高, 根室, 釧路総合振興局:この3振興局で2011年漁獲量の65%を占める)を集計した(図2)。図2を見ると根室振興局管内で1999年以降、日高振興局管内で2010年に許可隻数が増加している。

前記した襟裳以西海域での2010年以降の漁獲量の増加が、許可隻数の増加の影響を受けている可能性はあるが、現時点では明確ではない。

## (2) 現在(評価年)までの資源状態

タコ類の種別漁獲統計が集計されている1985年以降の全道のヤナギダコ漁獲量で資源状態を判断した(表1, 図1)。上記3-(1)で記述したとおり、漁獲量は1986～1991年に増加し、1990年代前半には減少したものの、その後増加に転じ、2005～2006年には襟裳以東海域での急増により、全道の漁獲量も増加した。しかし、2007年以降漁獲量は再び減少し、1990年代後半～2000年代前半と同程度の7千トン前後となったが、2011年には襟裳以西海域では増加したものの、襟裳以東海域での漁獲量が半減した影響が大きく、5千トン台とピーク時の半分以下にまで減少した。ヤナギダコ資源は襟裳以東海域の漁獲量変動は大きいですが、襟裳以西海域は比較的安定して推移しており、日本海やオホーツク海も少ないながらも安定して推移していることから、今後も安定的に推移してゆくものと思われる。

## (3) 評価年の資源水準：中水準

2011年の資源水準を漁獲量で判断する。資源水準指数は各年の漁獲量を1990年～2009年の20年分の漁獲量平均を100とした相対値で表す。資源水準指数60～140を中水準とし、それ以上を高水準、それ未満を低水準とした。2011年の資源水準指数は72となり、中水準と判断した。

**(4) 今後の資源動向：横ばい**

ヤナギダコの漁獲量は、急増した2005年及び2006年を除き比較的安定して推移しており、これは一時的な現象と考えられる。また、2011年の減少も襟裳以東海域では半減したが襟裳以西海域では増加したことから前年の2割減にとどまっており、今後の資源動向は横ばいで推移すると判断した。

**4. 文献**

なし

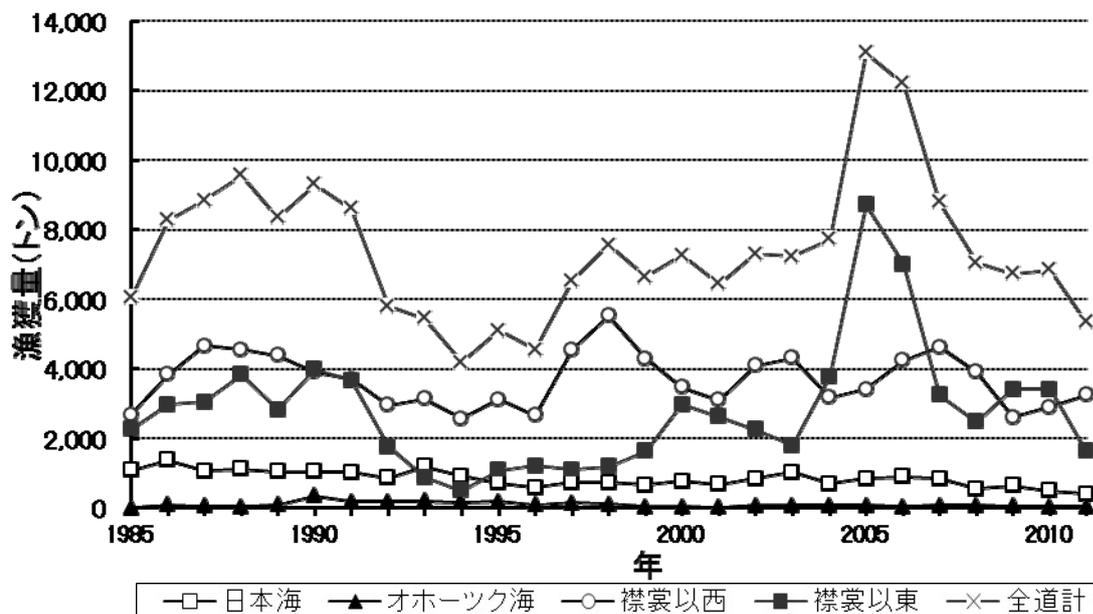


図1 ヤナギダコ海域別漁獲量の経年変化

資料：1985～2010年は漁業生産高報告、2011年は水試集計速報値

表1 ヤナギダコの振興局別漁獲量(トン)

海域\年	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	
日本海	宗谷	329	554	232	186	82	104	61	20	62	50	15	23	18	40	14	11
	留萌	305	362	339	263	358	313	421	349	444	294	283	242	293	239	204	205
	石狩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後志	431	428	488	674	606	616	528	490	680	571	407	307	399	427	420	543
	桧山	15	32	19	7	6	14	23	16	21	12	15	23	22	25	32	19
	小計	1,080	1,376	1,078	1,130	1,052	1,047	1,033	875	1,207	927	720	595	732	731	670	778
オホーツク	網走	4	100	58	37	91	354	187	197	215	175	181	95	147	112	49	47
襟裳以西	渡島	221	366	525	472	746	602	717	824	651	394	498	522	950	734	497	494
	胆振	384	571	411	592	973	733	607	342	366	242	441	363	824	1,074	716	512
	日高	2,088	2,901	3,723	3,487	2,664	2,588	2,394	1,802	2,130	1,936	2,182	1,779	2,775	3,719	3,093	2,465
	小計	2,693	3,838	4,659	4,551	4,383	3,923	3,718	2,968	3,147	2,572	3,121	2,664	4,549	5,527	4,306	3,471
襟裳以東	十勝	623	920	962	1,077	565	785	705	580	416	283	260	269	399	421	456	574
	釧路	992	1,721	1,520	1,964	1,228	1,339	1,170	619	270	81	351	369	365	489	486	1,004
	根室	647	332	574	806	1,036	1,855	1,802	565	197	145	480	570	340	284	689	1,404
	小計	2,262	2,973	3,056	3,847	2,829	3,979	3,677	1,764	883	509	1,091	1,208	1,104	1,194	1,631	2,982
全道計	6,038	8,288	8,852	9,566	8,355	9,308	8,614	5,805	5,450	4,183	5,100	4,561	6,533	7,563	6,654	7,278	

海域\年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
日本海	宗谷	20	51	40	31	29	31	21	48	34	32	29
	留萌	178	259	268	235	234	238	242	159	190	147	132
	石狩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後志	466	527	703	415	580	637	571	349	418	311	245
	桧山	17	19	16	13	10	6	8	6	4	2	2
	小計	681	856	1,027	694	853	912	842	562	646	492	408
オホーツク	網走	29	79	73	83	83	43	74	84	62	42	51
襟裳以西	渡島	424	538	453	574	598	781	805	702	695	463	537
	胆振	392	698	419	446	445	531	689	458	495	564	511
	日高	2,290	2,864	3,451	2,160	2,380	2,937	3,135	2,763	1,426	1,878	2,205
	小計	3,106	4,100	4,323	3,180	3,423	4,249	4,629	3,923	2,616	2,905	3,253
襟裳以東	十勝	403	584	749	780	905	693	516	375	202	341	331
	釧路	1,125	801	652	1,081	2,460	2,381	846	486	665	1,086	484
	根室	1,104	884	408	1,922	5,366	3,939	1,886	1,618	2,544	1,992	818
	小計	2,632	2,269	1,809	3,783	8,731	7,013	3,248	2,479	3,411	3,419	1,633
全道計	6,448	7,304	7,232	7,740	13,090	12,217	8,793	7,048	6,735	6,858	5,345	

資料：漁業生産高報告(2011年は水試集計速報値)

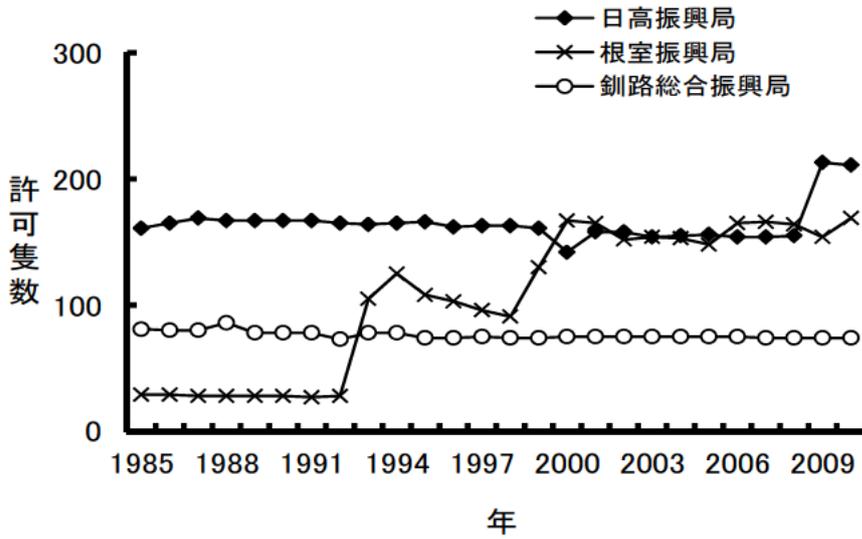


図2 振興局別たこ漁業許可隻数(知事許可たこ漁業)  
資料は各振興局発行の「支庁の水産」より引用

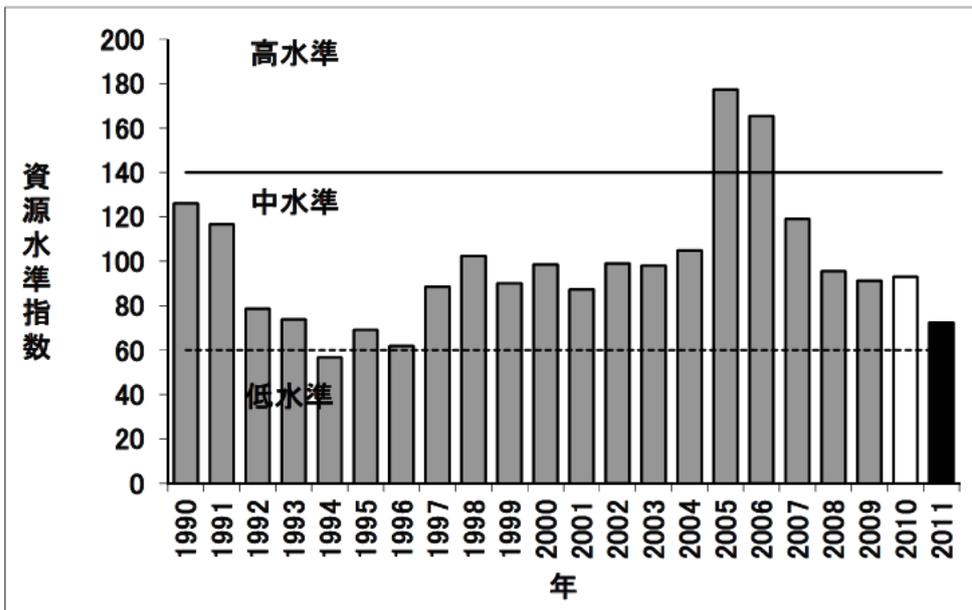


図3 北海道周辺海域のヤナギダコの資源水準  
(資源状態を示す指標：漁獲量)

生態表 魚種名：ヤナギダコ 海域名：北海道周辺海域

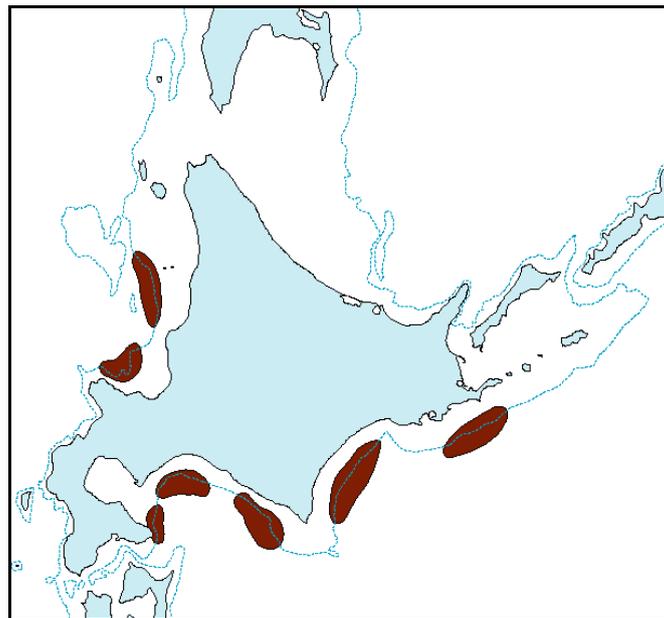


図 ヤナギダコ（北海道周辺海域）の漁場図

**1. 分布・回遊**

漁獲水深は100～400mであるが、稚ダコは水深30m前後に生息する。季節的な深浅移動をするが、浮遊幼生期がなく、大きな回遊はしない。

**2. 年齢・成長**

年齢・成長はよくわかっていないが、体重7kgくらいまで成長する。

**3. 成熟年齢・成熟体長**

体重3kgから成熟する個体がみられはじめる。繁殖活動はオス・メスとも一生に1度である。

**4. 産卵期・産卵場**

- ・産卵期：日本海では5～6月で、道東では冬季である。
- ・産卵場：日本海では水深120～180m、道東では水深70m前後の岩礁域に形成される。

**5. その他**

浮遊幼生期がなく、ふ化後すぐに着底する。

**6. 文献**

なし